

조선대학교
朝鮮大学校

『青年は、わが祖国の未来の主人公です。いずれの民族をとわず、その民族の将来は、青年がいかに教育され、訓練され、準備されるかに多くがかかっているといえます。それゆえ青年にたいする教育の問題は、いつの時代にも、どの民族にとっても、もっとも重要な問題の一つとされてきました。』

金 日 成

『大学は民族幹部養成の場であり、科学の殿堂であります。
…大学での教育は科学研究事業と密接に結びつけなければならず、大学の教員は技術者、専門家を育てあげる能力ある教育者であると同時に、国の科学技術の発展に寄与する有能な科学者でなければなりません。』

金 正 日





民族教育発展の原動力となっている祖国からの教育援助費と奨学金の配慮に感謝する中央大会（1986.4）



本校を訪問した国立平壌芸術団（1980.6）

朝鮮大学校の教育



朝鮮大学校は、1956年４月10日、在日朝鮮公民の民主主義的民族教育の最高学府として創立された。

祖国解放後すでに日本の各地で初級学校（小学校）から高級学校にいたる民族教育を実施していたのであるが、朝鮮大学校の創立によって、朝鮮高級学校卒業生に高等教育の場を与えたいという在日同胞の切実な念願がかなえられ、初級学校から大学校までの一貫した民族教育の体系が確立された。

朝鮮大学校は、祖国一朝鮮民主主義人民共和国の暖かい配慮により、この30年間、金日成主席が創始したチュチェ思想を指針として、祖国と民族の統一と繁栄に寄与する自主的で創造的な人材を育成し、日本をはじめ世界諸国民との学術文化の交流と友好親善に努めながら、その内容を充実させてきた。

２年制の大学校として、わずかな学生と教員で発足した本校は、現在４年制の文学部、歴史地理学部、 政治経済学部、 経営学部、外国語学部、理学部、工学部、および２～３年制の師範教育学部と研究院、三つの付属研究所をもつ総合的な大学校に発展している。

朝鮮大学校は、日本で生まれ育った２世、３世が在日同胞の大部分を占める今日の実情を充分に考慮して、母国語と朝鮮の歴史、文化をはじめとする民族的素養を高める教育に重点をおき、専門知識および健全な体力を兼備した人材を養成するために努力している。

教育の方法においては理論と実践、教育と実生活を結びつけており、これまで多くの有能な卒業生を社会に送りだした。

朝鮮大学校はまた、研究機関としての役割をはたすべく学術研究を進める一方、わが国で達成された社会主義建設の成果や研究業績を日本及び諸外国に紹介し、諸国民との友好親善を深めるうえで少なからぬ成果をおさめている。

もくじ

祖国の暖かい配慮のもとに



金日成主席の接見をうける韓徳銖名誉学長

敬愛する金日成主席は、民族教育と朝鮮大学校教育に常に暖かい配慮をめぐらしている。

本校の創立とその後30年間の輝かしい歴史は、祖国の配慮なくしては考えられない。

創立当時は、満足な校舎もなく、そのうえ教材も不足がちで苦難の日々がつづいた。

しかし、1957年、戦後の復興建設のきびしい時期に、主席は「われわれが工場を一つ二つ建設できないことがあっても、異国で苦労している同胞の子弟を勉強させる資金を送らねばなりません」と述べ、在日同胞子弟の教育援助費と奨学金を送ってくれた。以来、今日まで100回にわたり、実に377億余円の教育資金が送付され、それは朝鮮大学校をはじめ在日同胞子弟の民主主義的民族教育を力強く支えている。祖国では、日本で生れ育ち、祖国を知らない若い世代を教育するという困難な条件を考慮し、本校創立当初から今日まで、教科書、学術書、実習機械、民族楽器など数かずの教材を送りつづけている。また、本校創立25周年に際しては新しく設置された朝鮮歴史博物館と自然博物館に数千点の貴重な展示物と資料を送ってきた。

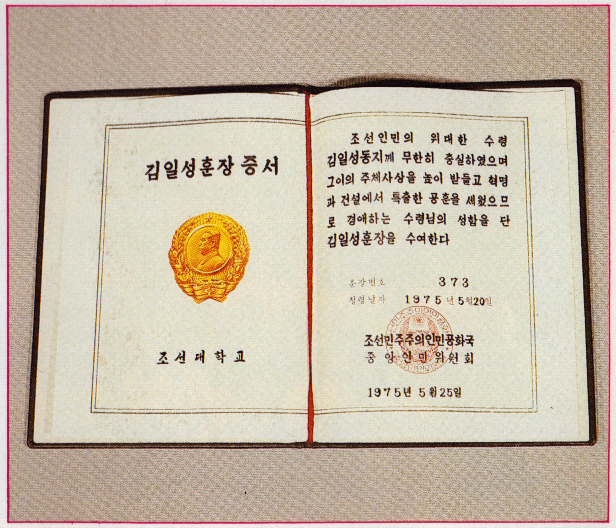
また、金正日書記は、本校教員の学術研究と資質向上のための措置を講じ、教員の研究成果を高く評価して、共和国の博士、教授などの学位、学職を与えられるようにしたばかりか、彼らの健康に至るまで、細かく配慮している。

さらに、祖国のはからいにより教職員、学生の母国訪問の道がひらかれた。1973年8月、音楽、体育サークルの学生が初めて祖国を訪問して以来、その道は毎年広がりつつある。

まさに、これまでの朝鮮大学校のあゆみは、金日成主席と金日正書記のたぐいまれな同胞愛と祖国の暖かい配慮の歴史でもある。



本大学校に授与された金日成勲章と証書（1975.5）





本校を訪問して民族楽器を贈る国立平壌万寿台芸術団（1973.8）

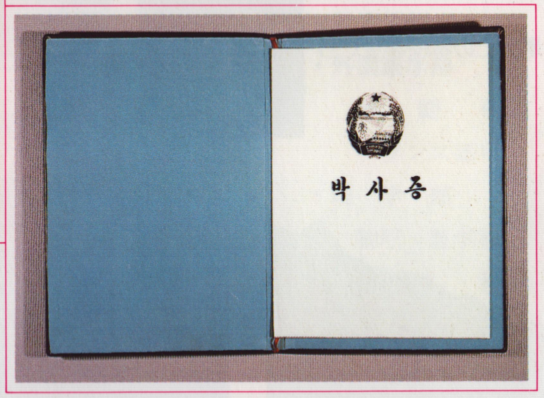


祖国の配慮によって最終学年の全学生が母国を訪問する。万景台（平壌）にある金日成主席の生家の前で（1980.8）

●祖国の暖かい配慮のもとに





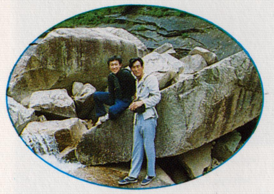


教員に贈られた共和国博士証書とメダル



祖国から贈られた教科書、参考書

●祖国の暖かい
配慮のもとに





万景閣上の本校学生たち



白頭山の天池のほとりで



金剛山での楽しいひととき



金剛山の岩壁に彫られた「志遠」

学部と研究施設



○学　部
- 文　学　部
- 歴史地理学部
  - 歴史学科
  - 地理学科
- 政治経済学部
  - 哲　学　科
  - 政治経済学科
- 経営学部
- 外国語学部
  - 英　語　科
  - フランス語科
- 理　学　部
  - 物理・数学科
  - 化　学　科
  - 生物学科
- 工　学　部
  - 機械工学科
  - 電子工学科
  - 金属工学科
- 師範教育学部
  - 師　範　科
  - 保　育　科
  - 音　楽　科
  - 美　術　科
  - 体　育　科

○研究院、研究所
- 研究院
- 社会科学研究所
- 朝鮮語研究所
- 民族教育研究所

○図書館

○記念館

文学部

ことばと文字は民族の魂。母国語の教育は民族教育の中心である。文学部でその朝鮮語と朝鮮文学を専攻する。

文学部は、祖国を知らない在日朝鮮人2世、3世が急増している実情に照らして、母国語教育と文学教育に特に力を入れている。

朝鮮文学専攻

文芸理論、美学、朝鮮古典文学、共和国の現代文学、南朝鮮の文学などの講義がある。一般科目として漢文、日本文学、世界文学などもカリキュラムに組みいれられている。

各ゼミでは共和国の作品研究とその翻訳、創作と批評などの実践的能力の向上にも力を注いでいる。

朝鮮語専攻

朝鮮語の音声と文法、朝鮮語発達史、朝鮮語学史などの研究と講義が中心であり一般言語学、言語学説史、言語政策論などの科目がある。

ゼミでは言語理論、言語教育、言語行動、コンピューターによる言語処理などが研究されている。

さらに学生たちの課外活動が活発である。



朝鮮古典文学作品の講読

朝鮮文学史の講義

文学創作部、古典文学研究部、新聞部、演劇部、朝鮮語研究部、母国語教育研究部など言語と文学の広い分野にわたる学生自身の自主的な研究と実践活動を通じ、在日2世、3世のなかで朝鮮語を守り、文学の伝統を継承発展させる力を養っている。

これらの活動の成果の一つである『朝大文学』は、学生たちの手になる季刊文芸誌で、大学校とともに30年の歴史をもち同胞の間でも高い評価を受けている。

また演劇部は学内外で年数回の公演を行い好評を博している。

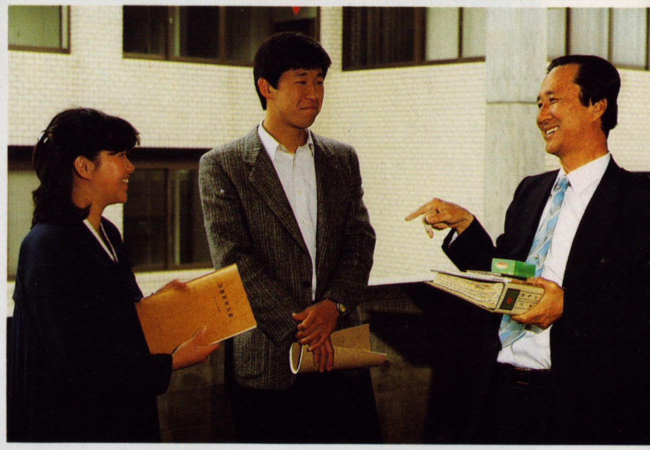
このように、文学部の学生たちは母国語と朝鮮文学を通じて在日朝鮮人の主体を確立し、祖国の伝統に基づいた新しい文化を創造するため熱意をかたむけており、数多くの卒業生が、教育、報道、出版、文学、芸術などの各分野でめざましいはたらきをしている。







授業が終っても討論は続く





詩とその朗読法の講義

文学作品分析にかんする講義

歴史地理学部

朝鮮の歴史と地理は、母国語とともに、民族教育において重要な位置を占めている。チュチェの社会歴史観を学び、統一された祖国の未来を設計する学生たち――



朝鮮現代史資料講読

歴史・地理学部には歴史学科と地理学科がある。祖国の歴史と地理を学ぶことは、民族教育の重要な柱の一つである。

歴史学科

朝鮮史を中心とした歴史専攻課程と現代史専攻課程がある。

この学科では、チュチェの社会歴史観にもとづく史学理論、朝鮮史、世界史をはじめ、歴史全般の把握と経済史、文化史、朝・日関係史などの専門別研究を行う。また古代史、中世史と近現代史など時代別研究のための古典や史料の講読、分析も行っている。

近年、チュチェの社会歴史観にもとづいて近現代史を新たに体系化する研究と、朝鮮の三国史と日本古代史との関連を明らかにする研究がすすめられている。また九州、西日本地方の朝鮮式山城などの古代朝・日関係史跡や、在日同胞の苦難の歴史を秘める炭鉱などの現地踏査も行っている。



朝鮮歴史の授業



朝鮮地理研究ゼミ



学生たちの朝鮮史研究

地理学科

自然地理、経済地理、朝鮮地誌の専攻部門がある。

自然地理では朝鮮自然地理の研究に重点をおき地形学、地質学などの教授にも力を入れている。また現在注目をあつめている祖国での自然改造事業や異常気象のなかで多収穫をおさめている農業部門の研究などもすすめられている。

経済地理では共和国北半部における社会主義経済建設と南朝鮮経済の実情を学び、南北経済の比較研究なども行っている。

地理学科ではフィールドワーク、公害、都市問題の研究などがさかんである。

学生のあいだでは朝鮮現代史、朝鮮古代中世史、朝鮮近代史、世界史、自然地理、経済地理、南朝鮮研究などのサークル活動が盛んで学生の研究雑誌も定期的に発行されている。

卒業生は歴史学と地理学の研究と教育にたずさわるかたわら、2世、3世同胞の啓蒙のために活躍している。

政治経済学部

祖国の統一は朝鮮民族の悲願。たとえ海外に居住していても、あすの祖国に役立つ知識と能力の研鑽は欠かせない。



授業に熱中する学生たち



政治経済学部では民族の念願である祖国の自主的平和統一に寄与し、また世代がかわりつつある在日朝鮮同胞社会の諸問題を適切に解決しうる見識と素養、実践能力を兼ねそなえた人材の育成に主眼を置いている。

政治経済学部には哲学科、政治経済学科がある。

哲学科

哲学科ではチュチェ思想にたいする体系的な研究を行っており、哲学概論、社会思想史、論理学、古典研究をふくむ専門分野の講義と演習が行われている。

人類の知的遺産を摂取し、現代社会における思想的状況を正しく把握するだけでなく、自らの運命を自主的に開拓するための正しい思想を探究する理論家、教育者を育成している。

政治経済学科

政治経済学科では、現代社会の政治、経済のしくみと、法則についての理解を深めるため経済学の基礎理論、世界経済論、経済学説史、金融論、財政学ならびに政治理論、国際関係論などの研究、講義を行なっている。さらに共和国の政治、経済の現状と未来像、南朝鮮における政治と経済の構造、日本と世界の政治経済動向にたいする科学的認識を深めるよう努めている。

学生たちはチュチェ哲学研究会、在日朝鮮人運動研究会、南朝鮮研究会、社会主義経済研究会、日本経済研究会など多様なサークル活動をくりひろげている。また在日朝鮮人の社会的、経済的活動の現況と将来を正しくとらえ、同胞の民主主義的民族権利の擁護と祖国統一のための理論と実践能力を身につけるため努力している。

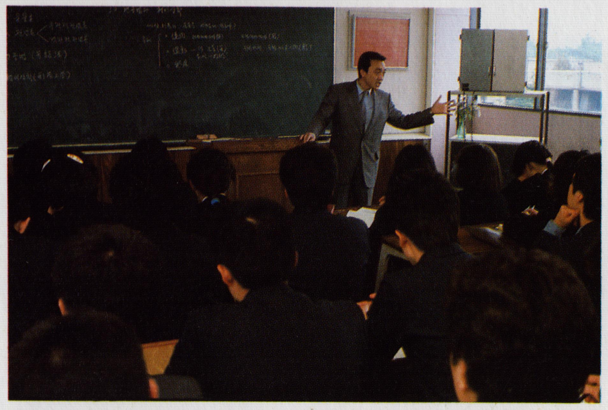
卒業生は在日本朝鮮人総聯合会の各級機関と傘下の団体や企業などで指導的役割をはたしている。



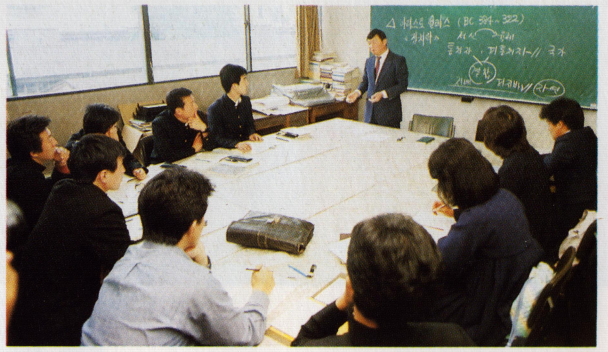
社会政策にかんする講義



活発な討論が展開される授業風景



現代哲学の講義



哲学史研究ゼミ

経営学部

きびしい経済環境のなかで、同胞の企業と生活を守りぬくには、現代的な経済知識と経営感覚を身につけた人材が要求される。



コンピューター室で

揺れ動く日本経済の厳しい環境のなかで、在日同胞商工人の企業経営活動は、その維持、存続、発展のうえで複雑な問題を抱えており、このような問題に対処しうる有能な人材を切実に求めている。

1982年4月に新設された経営学部は、在日同胞商工人の企業権をはじめとする民主主義的民族諸権利を擁護し、同胞の各種の経済活動に役立つ経済専門家および商業科（高校）の教員を養成している。

経営学部では、幅広い理論と知識とともに経済・経営に関する基礎理論が習得できるように低年次から一般教養科目だけでなく専攻科目も積極的に取り入れている。

経済基礎理論、日本経済論、世界経済論、世界貿易論、金融論、財政学といった広い視点からのアプローチを主軸にし、さらに経営学、企業管理論、中小企業論などの企業経営に関する基礎理論を講義、研究しており、複雑多岐にわたって提起される同胞商工人の企業活動に関する実践的問題を深く追求できるようにカリキュラムが組まれている。

また経営活動の効率化と企業経営の計数的把握のために簿記会計論、経営分析論、統計学、税務会計論、電子計算機論なども体系的に教授し、経営活動の高度化に実務的にも対応できる人材を養成している。

経営学部のもう一つの特徴は、在日同胞の企業権、生活権擁護のための法学概論、民法、商法等の法学の修得にも重点をおいていることである。

ことに演習、学生たちの研究サークルに対する指導などを通じて、学生たちを理論と実践能力を兼ね備えた有能な人材に育てるために努力している。



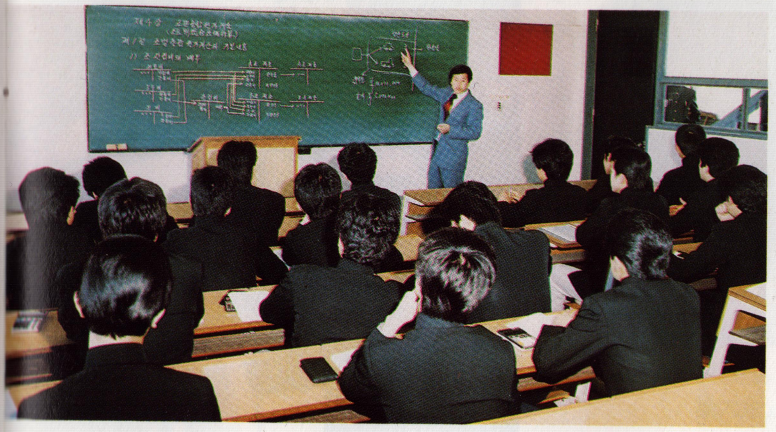
財政学の講義



企業経営研究ゼミ



学生たちの研究討論



経営分析論の講義

外国語学部

外国語は、日本をはじめ諸外国との友好親善、学術文化の交流には欠かせない。とくに英語の学習研究が活発である。



英国人講師のクラス指導



現代英語演習

英語科、フランス語科、日本語専攻班（3、4年）がある。英語科の第2外国語としては日本語、フランス語、スペイン語、ロシア語がある。

1、2年次では言語理論、文法と文学の基礎理論、3、4年次では作品講読と演習を通じて英語学、日本語学、外国文学、英語・日本語教授法などを教授している。4年間を通じて現代語の習得と研究に重点をおいているのが特徴といえる。また講読、会話、作文にかなりの時間をあてており、最新の器材とLL教室の利用、外人講師のクラス指導と個別指導などによって、学生たちが外国語を実践的に学ぶよう努めている。

日本語専攻班では、日本語の理論的な研究と文学作品の講読、文学史の研究などに重点をおいている。

英語科、日本語講座では、朝鮮中高級学校の英語、日本語教育についての研究、教材や参考書の作成なども行なっている。

学生たちの英会話サークルが活発で、英語弁論大会などを通じて日本の大学との交流を深めており、NHK、毎日新聞社の共同主催で行なわれる日本の全国学生英語弁論大会での優勝をはじめ、すぐれた成果をあげている。

その他にも学生たちは英米文学研究会、言語学研究会、日本語・文学研究会などのサークルをつくっており、英語雑誌を年1回出している。とくに英語科学生のあいだでは英語教育、教授法の共同研究がさかんである。

卒業生は、朝鮮中高級学校の教員、通訳、ジャーナリストとして活躍しているが、一部の卒業生はイギリス、フランスなどの諸外国に留学してさらに研究を深めている。





L・L教室



アメリカ文学研究ゼミ



NHK、毎日新聞社共催の「全国学生英語弁論大会」などで優勝したカップ



触媒研究

理学部

自然科学の基礎理論と最新科学の成果を学ぶ。日本をはじめ各国との学術文流も日ましにさかんになっている。



数学の授業



組織培養（無菌室）

理学部は、時代に即応した自然科学の基礎理論と最新科学の成果を習得した創造性豊かな人材を養成することを目的としている。

当学部には、物理数学科、化学科、生物学科の三学科がある。

物理数学科

２年間共通の基礎教養課程を経たのち、３年次から数学コースと物理コースに分かれる。

数学コースでは現代数学の基礎理論と応用に力を入れ、コンピューター教育も行なっている。研究面では関数解析、関数方程式、代数学などの研究がさかんであり、数学教育の研究にも力をそそいでいる。

物理コースでは現代物理の基礎に力を入れ応用物理、電子計算機なども幅広く教えている。研究面では物性物理、原子核物理などの理論的研究、半導体物理、Ｘ線構造解析、レーザーなどの実験的研究が行なわれている。

化学科

授業では物質と物質変化に対する認識と理解を深めるための実験を重視し、エネルギー革命、材料革命に即応した基礎理論などに力を入れている。研究面ではCOからのガソリン合成、電気伝導性高分子化合物の合成、生物活性物質の合成などの研究を精力的に行なっている。

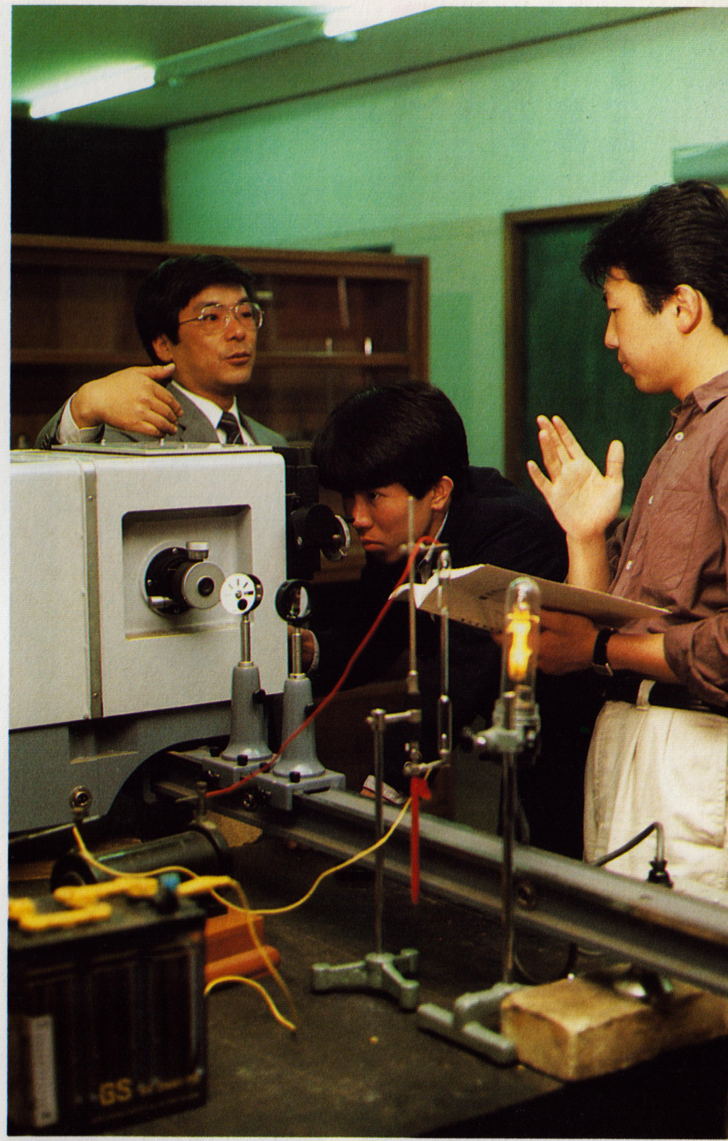
生物学科

生理、生化学および遺伝学を中心とした講義と各種実習、実験を通じて生命現象の理解に力をそそいでいる。研究面ではバイオテクノロジーの一環としての動・植物の組織培養をはじめ、クロマチン、植物の老化、セルローズ分解菌などに関する研究が行なわれている。

各研究室での研究論文は祖国、日本および諸外国の雑誌に発表され、注目をあびている。

学生たちは正規の授業のほかに各種の研究会を組織し、課外研究活動をさかんに行なっている。

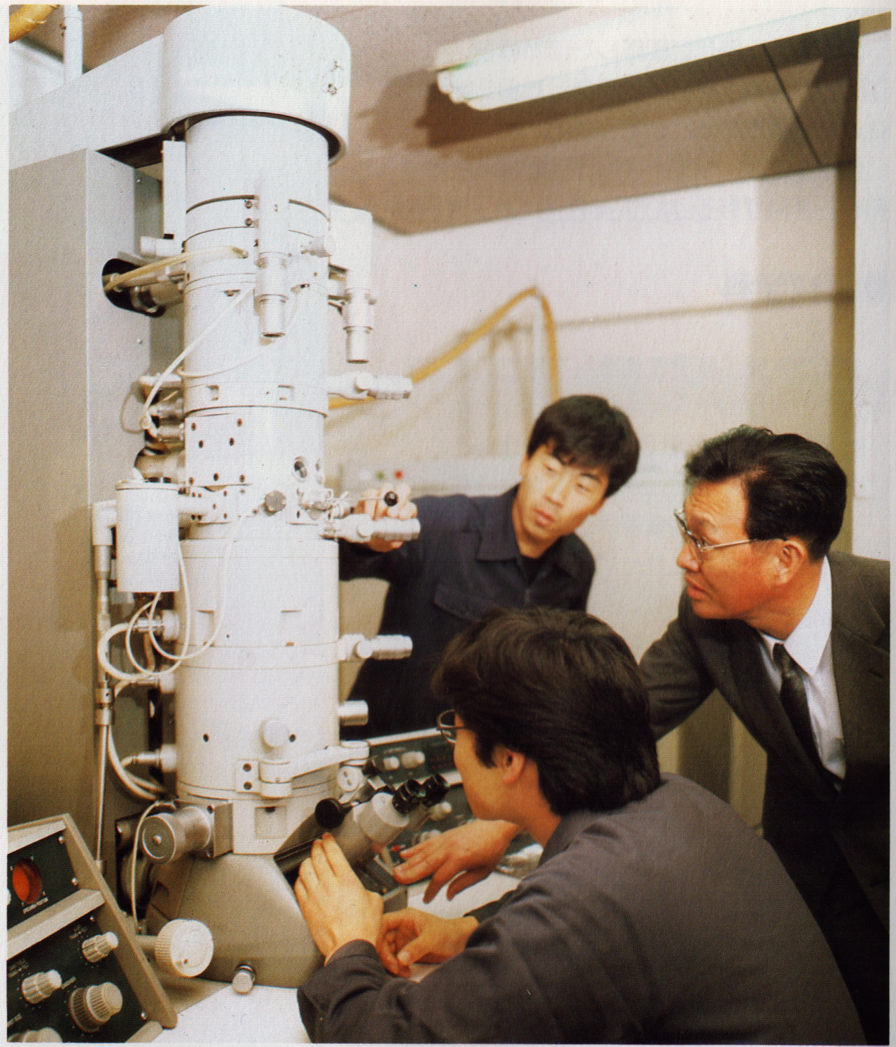
卒業生のなかには朝鮮中高級学校の教員として同胞子弟の教育に従事している者が多い。一部の卒業生は祖国に帰り大学や研究機関で教育者、技術者として活躍している。また日本、フランス、スエーデンなど諸外国の大学院、研究機関に進み、多くの研究成果を収め、学位を取得している者も少なくない。



物理実験

工学部

機械力学、自動制御、半導体の研究および電子計算機の活用、理論学習と総合的応用性の習得――この学部の課題は多様である。

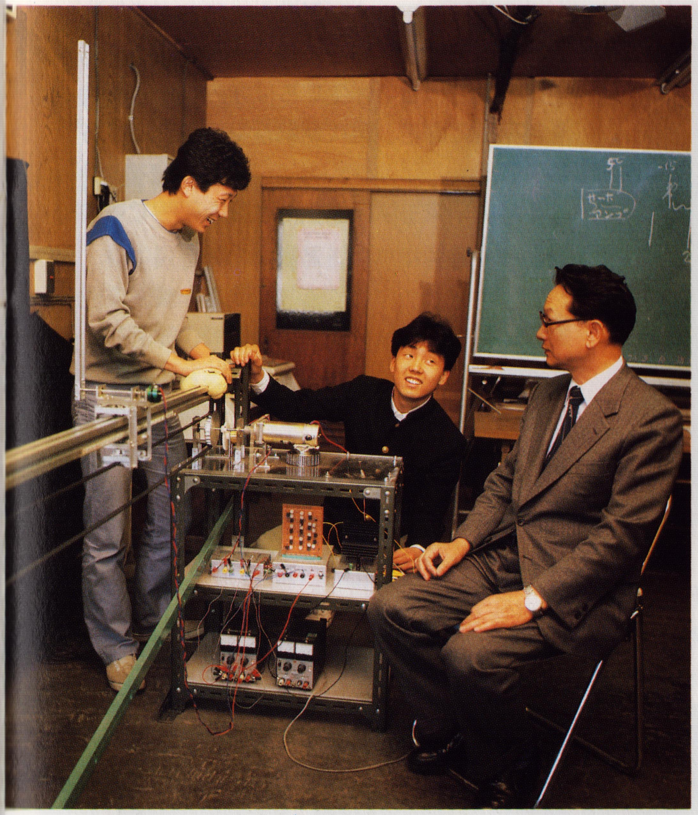


電子顕微鏡室





製図室



実験室にて



機械実習

工学部には機械工学科、電子工学科、金属工学科がある。

1、2年次では数学、物理学などの基礎科目とエレクトロニクス時代の要求に応えて電子回路、電子計算機の理論と実習、設計製図などを学部共通に履修し、3、4年次ではそれぞれの専門課程の理論を深め、実習実験を行なう。

機械工学科

材料力学、流体力学、熱力学、機械力学の四大力学に加えてメカトロ化の流れに即して自動制御、ロボット、精密機械の理論と実験、またエンジン、油圧などを教える。

マイコンによる機械の制御、工作機械のNC制御と加工精度の向上、エンジンの性能向上に関する研究面での成果が大きい。

電子工学科

電気回路学、電子回路学、電子物性論などを基礎科目として教え、高学年では自動制御、半導体、電子計算機、電子計測、通信工学の理論と応用を修得する。

半導体関係では多くの研究成果をあげ内外の注目を集めており、また自動制御、コンピューターの応用などにも力を注いでいる。

金属工学科

材料科学、材料物性、物理化学など材料工学の基礎を教え、工学における基盤的な素養を備え材料革命をになう人材を育成している。

新素材開発の研究が盛んであり、とりわけ非品質合金、水素貯蔵合金、形状記憶合金などの研究で成果をあげている。

卒業生は日本の大学の研究機関をはじめ同胞の企業、日本の企業などに進出して重要な役割を果している。

師範教育学部

初中級学校の教師、幼稚園の保田、それに特殊な技能をもった専門家たちがここで育っていく。

師範教育学部は2年制で（一部3年制）師範科、保育科、音楽科、美術科、体育科の五つの学科からなっており、在日朝鮮人学校の教師、または各部門の専門家の養成に目標をおいている。

本学部では朝鮮語、歴史などの民族科目と教育学、心理学などの共通科目を学び、各科ごとに各自の専攻理論と実務技能を修得できるようにしている。また、学生たちの教育実習、専攻実習がさかんに行なわれている。

師範科

師範科には3年制と2年制の2コースが併設されている。3年制は全員奨学生で学費全額免除の特典が与られている。本科は初級学校の教員養成を目的としており朝鮮語、外国語（日本語、英語）、社会科学、自然科学、芸能、体育などを教える。

保育科

幼稚園の教員と保田養成を目標としており教育学、保育学、幼児心理学、保健衛生の基礎理論、音楽、美術、体育の実技など幼児教育に関連する科目を教える。また幼稚園の現場で保育実習も行う。

音楽科

初中級学校の音楽教師と民族音楽の専門家を養成している。

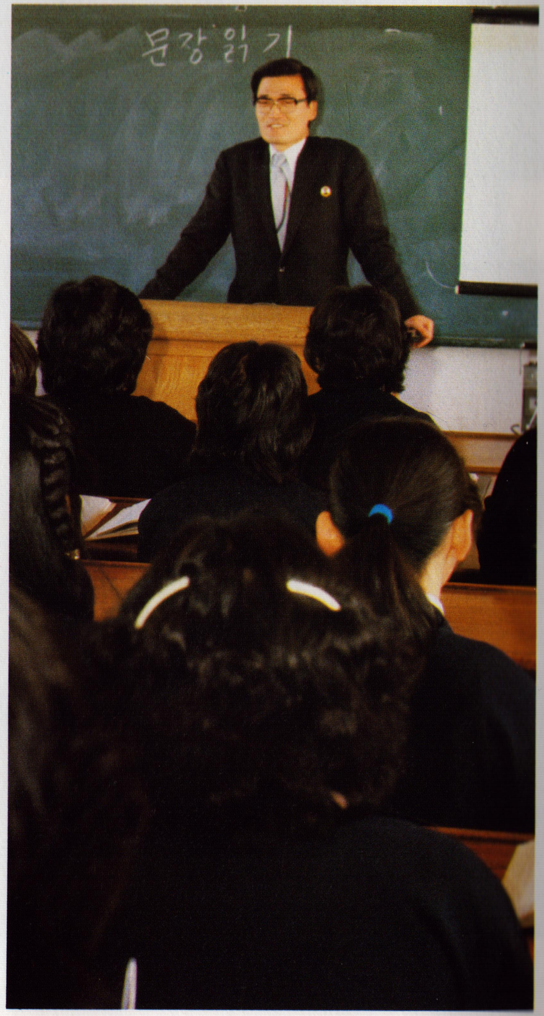
音楽理論、実技の科目においてとくに主体の確立と民族的素養の習得、それに技能の向上に努めている。学生たちは学内学外演奏会を定期的に開き、現代朝鮮音楽の普及に寄与している。

本科の卒業生は民族教育と芸術部門で活躍している。

美術科

初中級学校の美術教師および美術家の養成を目的としている。

現代朝鮮の美術、ことに朝鮮画の成果を幅広くとり入れ、朝鮮民族の優れた芸術伝統を継承し学んでいる。



教授法の授業

現在朝鮮初中級学校の美術教師、在日同胞の美術創作家のほとんどは本科の卒業生である。

体育科

初中級学校の体育教師または社会体育の専門家を養成する。

共和国の体育政策をはじめ体育基礎理論、体育実技などを教えている。

本科の卒業生は初中級学校の体育教師として、在日同胞の体育団体や体育サークルの指導員として活躍している。


アトリエ


朗読演習


新体操


音楽実技

研究院 研究所



研究院、研究所などのある一号館

研究院

研究院は二年制で、文学、言語学、哲学、教育学、歴史、経済学などの社会科学研究課程と、数学、物理、化学、生物、工学などの自然科学研究課程があり、それぞれにいくつかの専攻がある。研究院生は本校卒業生から選抜される。また、必要に応じて日本の大学、研究所に研究生として派遣する場合もある。研究院修了者は教員、研究者として本学および総聯傘下の研究所で重要な役割をはたしている。



社会科学研究所員の海外セミナー参加

社会科学研究所

本研究所はチュチェ思想と、それにともづく哲学、歴史学、政治経済学、教育学、言語学、文学芸術論などを研究する専門機関である。また、当研究所では、共和国における社会科学の研究状況や成果の紹介にも努め、日本をはじめ諸外国の学会、学者との学術交流も活発におこなっている。

研究所では、『学術資料』(朝鮮語、年2回)と、『社会科学研究』(日本語、年報)を発行しており、現在、未来社から「チュチェ思想叢書」(全12巻)を刊行中である。



微生物実験室

朝鮮語研究所

本研究所では、現代朝鮮語、朝鮮語の歴史などの基礎的研究と在日朝鮮人の言語生活の実態についての調査研究などを行ない、在日同胞の言語生活の向上のため数多くの研究論文を発表し、また、各種の朝鮮語入門書などを出している。

民族教育研究所

本研究所は共和国の教育に関する研究、その成果の紹介、在日朝鮮人の民主主義的民族教育の研究と理論化を体系的に行ない、民族教育の発展につくしている。



半導体研究室の一角



図書館、この建物と講堂および一部の寄宿舎は教職員、学生の手で建設された

図書館



図書閲覧室



講堂

朝鮮大学校図書館は、共和国と南朝鮮の書籍、定期刊行物、その他の資料、および日本で出版される朝鮮にかんする資料などを豊富に蔵し、また在日朝鮮人運動にかんする資料も系統的に収集している。

とくに、共和国で発行される最近の図書出版物はもれなくそろえており、歴史研究や古典研究に必要な古書や復刻版もつとめて収集している。

また、日本の各大学図書館、研究所との資料交換を活発に行なって学術交流に少なからぬ寄与をしている。



講堂の内部

記念館

朝鮮大学校記念館は、本大学校創立25周年を記念して、卒業生たちの力によって、1982年5月に竣工された。1階は朝鮮自然博物館、2階は朝鮮歴史博物館、3階は各研究室、4階は小講堂である。

朝鮮歴史博物館は、五百数十点の歴史遺物と各種の模型、模写、写真資料を展示し、原始時代から近代に至る朝鮮文化の発展過程を体系的にみせてくれる。とくに原始時代、古代、高句麗、渤海に関する展示は、解放後にあらたに発掘され、朝鮮史の体系を確立するうえで重要な役割を果した遺跡、遺物の資料をそなえていて、それが本歴史博物館の特徴ともなっている。

まず原始時代では、旧石器時代の人骨や石器、新石器時代の屈浦里西浦項遺跡、南京遺跡、初期青銅器時代の遺物が注目される。



記念館の全景

古代では、古朝鮮成立の鍵を握る崗上墓と琵琶形銅剣関係資料、後期の細形銅剣関係と楽浪遺跡関係の資料がある。

高句麗関係では、多くの壁画の模写、安鶴宮と大城山城の模型やその他の遺物が、高句麗の強大さとその文化の高さをしのばせている。

新羅、渤海、高麗、李朝についても、各種の資料を展示しており、今後の収集に期待がよせられている。

朝鮮自然博物館には、二千数百点に達する地下資源や岩石類、化石類、動・植物標本、それにわが国の地形と自然分布図や模型などが展示されている。

埋蔵量の多いことでよく知られる磁鉄鉱や金、マグネサイトなど200余種の鉱物や、地質時代を表わす示準化石も数多く陳列されている。また、コウライキジやチョウセンヒョウなど、鳥類や哺乳類の剝製標本が100種類ほど収められ、魚類、両生類、爬虫類などの液浸標本130余種が展示されている。

また、わが国独特の薬用植物の標本と、代表的な植物の押葉標本、キノコ類や各種木材の標本、それに天然記念物として有名なウスバキチョウ、ベニモンキチョウをはじめ、朝鮮産蝶類のほぼ全種を含む昆虫類など、500余種が展示されている。

朝鮮歴史、自然博物館は、在日同胞や子弟たちにとって、祖国の歴史と自然を身近に感じ、祖国愛を育む場となっており、日本の学者、専門家の間でも関心が高く、多くの人たちが訪れている。



朝鮮歴史博物館（原始時代）





朝鮮自然博物館の一部



朝鮮歴史博物館（三国時代）



朝鮮歴史博物館（李朝、亀甲船）

朝鮮歴史博物館の見学者たち



学生たちの生活



閑静な武蔵野の一角、比較的恵まれた教育環境のなかで、1,200余名の学生が、楽しく意義深い大学生活を送っている。

学生たちは知、徳、体を兼備するため学習に、文化活動やスポーツに、寮を拠点として多彩な活動をくりひろげている。

日本全国から集まってくるすべての学生が、大学の寄宿舎で寮生活を営むのが本校の特徴といえよう。先輩たちにあたたかく迎えられて入学した学生たちは、2～4年間の大学校の集団生活のなかで知性をみがき、人格を形成し、未来の同胞社会の主人公として自らを鍛えている。

母国語をまったく解さない日本高校を卒業した一部の新入生も、夏休みまで続く「ウリマル学習100日間運動」が終わる頃には自らの努力と先輩の親身な助力で、朝鮮語を使って不自由なく日常生活ができるようになる。それればかりか、かれらは母国語習得の過程で民族的な自覚と素養を身につけていく。

学習は、教室での講義や演習ばかりでなく、学部とクラス別に編成された5～8人の寮生活の場でも深められる。

学生たちは自治活動と科学、文化、体育など各分野のサークル活動に若い力と情熱をそそぎ、日本の各大学との研究、文化、体育などの交流を積極的にすすめている。





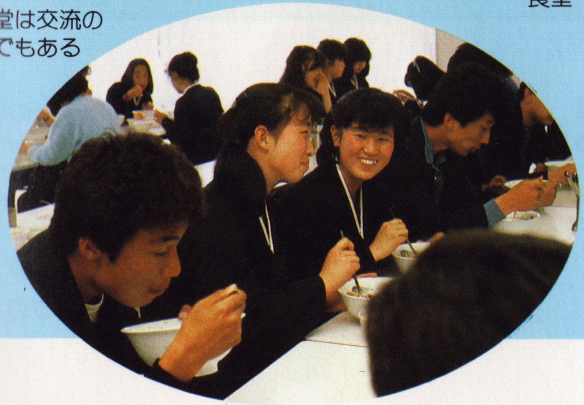
校庭でくつろぐ学生たち



教室に向う女子学生たち（寮の前で）



食堂



食堂は交流の場でもある



だんらんのひととき





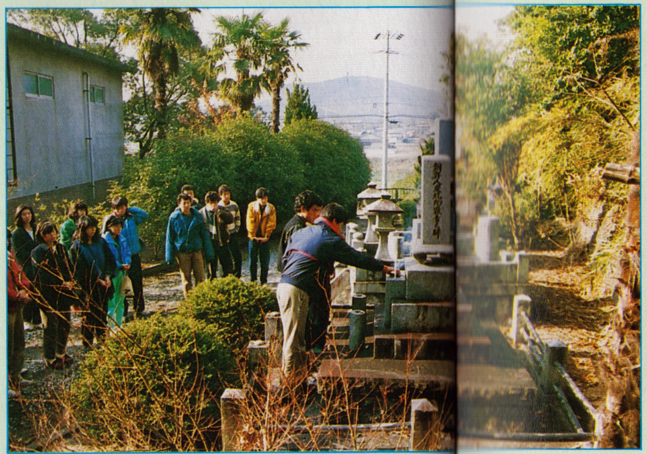
自習



学生たちの科学展示会



生物学科学生の研究



歴史研究会学生たちの実地調査



半導体研究会員による発表



製陶クラブ

●研究サークル

学生たちは、旺盛な知的欲求を満たすため学部ごとの、または各学部、各学年にまたがるサークルに参加し、研究活動を行っている。

すでに30回に達する「学科別研究討論会」は、毎年12月に日本の各大学に在学する朝鮮人学生と共同でもたれ、そこでは学生たちの日ごろの研究活動の成果が発表される。

また7月には、学部ごとに「研究サークル発表討論会」が行なわれ、学生たちの研究意欲を高め、学問探究を刺激する契機となっている。

サークル活動の成果はいくつかの学内雑誌に発表され、学生だけではなく卒業生、在日同胞の間にも広く紹介されている。

日本の大学生との交流も盛んで、各大学でのシンポジウムやインターゼミなどの討論会にも参加している。

●文化サークル



学生たちは、専攻科目の学習を深めるだけでなく、文化サークル活動を通じて民族的素養の向上に努めている。

本校には民族舞踊部、民族器楽部、カヤグム（伽倻琴）部、および合唱、演劇、写真、美術、製陶など数多くの文化サークルがある。

これらのサークルでは朝鮮の文化と芸術にたいする研究と学内外での発表を活発に行っている。

大規模な音楽舞踊叙事詩をはじめとする合同公演、作品展示会、発表会などで日頃の練習成果をあますところなく発揮しており、日本の各大学の学園祭などへの賛助出演を通して朝・日親善のためにも活躍している。



合唱部の公演

吹奏楽部と民族器楽部の合同練習





民族舞踊部

吹奏楽部





演劇部



朝鮮舞踊の練習

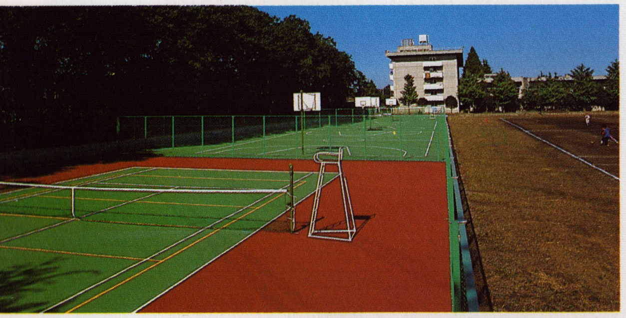
●体育サークル

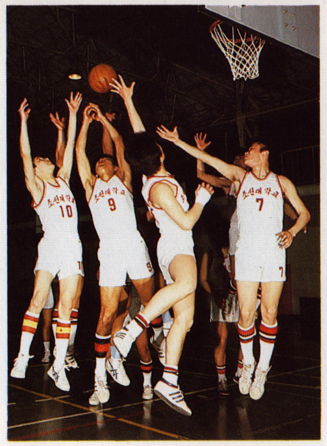
本校では体育を大衆化、生活化しようと体育部門の課外活動を盛んに行なっている。

毎年行なわれる2月のクラス対抗駅伝大会、全学生が参加する4月末のマラソン大会、冬のスケート練習会などは、学生たちの基礎体力の増進に役立っている。

本校ではさまざまな体育サークルが活動しており、多数の学生たちがこれに加わっている。選手を育てる体育サークルとともに学部別、クラス別につくられた各種の同好会があり、大学生活に活気を与えている。

サッカー部、ラグビー部、陸上部、ボクシング部をはじめ各種のサークルは、毎年催される対内外競技と定期戦で優秀な成績をおさめており、日本の大学生および社会人との親善を深めている。





バスケット部



シュート決まるか



クラス対抗駅伝

スキー部の一日

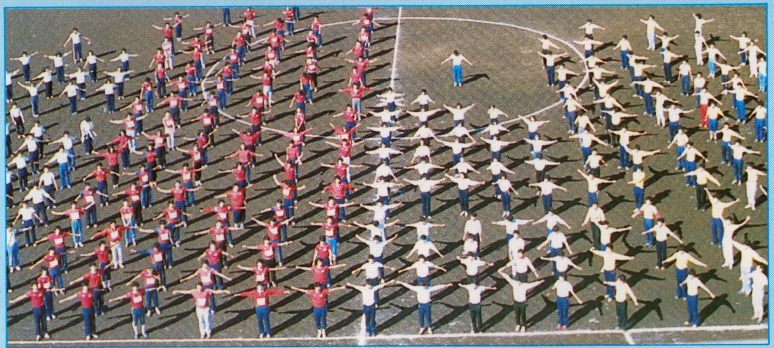




全学生が参加するスケート練習



スクラムを組んで



秋季運動会





初期の仮校舎

朝鮮大学校の歩み

○朝鮮大学校の創立
○総合的大学校への発展
○大学校のいっそうの発展を目指して



第一回卒業式（1958.3）

朝鮮大学校の創立

朝鮮大学校は、在日本朝鮮人総聯合会が結成された翌年の1956年4月10日に創立された。

祖国解放後、在日朝鮮人は祖国が南北に分断され、日本に居住せざるをえない条件のもとで、日本各地に初級学校、中級学校、高級学校を設置し民族教育を実施することとなった。

在日朝鮮人の民族教育は、朝鮮総聯の結成とともに新たな発展をとげ、それにともなって教員養成が重要な課題となった。また、独自の高等教育機関がないため、その設立が強く望まれただけでなく、朝鮮高級学校卒業生の日本の大学への進学の道が閉ざされていた関係上、大学校の創立はいっそう切実なものとなった。

朝鮮大学校は、このような在日朝鮮人の切



第一次の給費生伝達式（1959.6）

実な願いと民族教育発展の必然的な要求を反映して創立されたものである。

本校の創立は、初級学校から大学校にいたる一貫した民族教育の体系の確立を意味し、民族教育発展の画期的な契機となった。

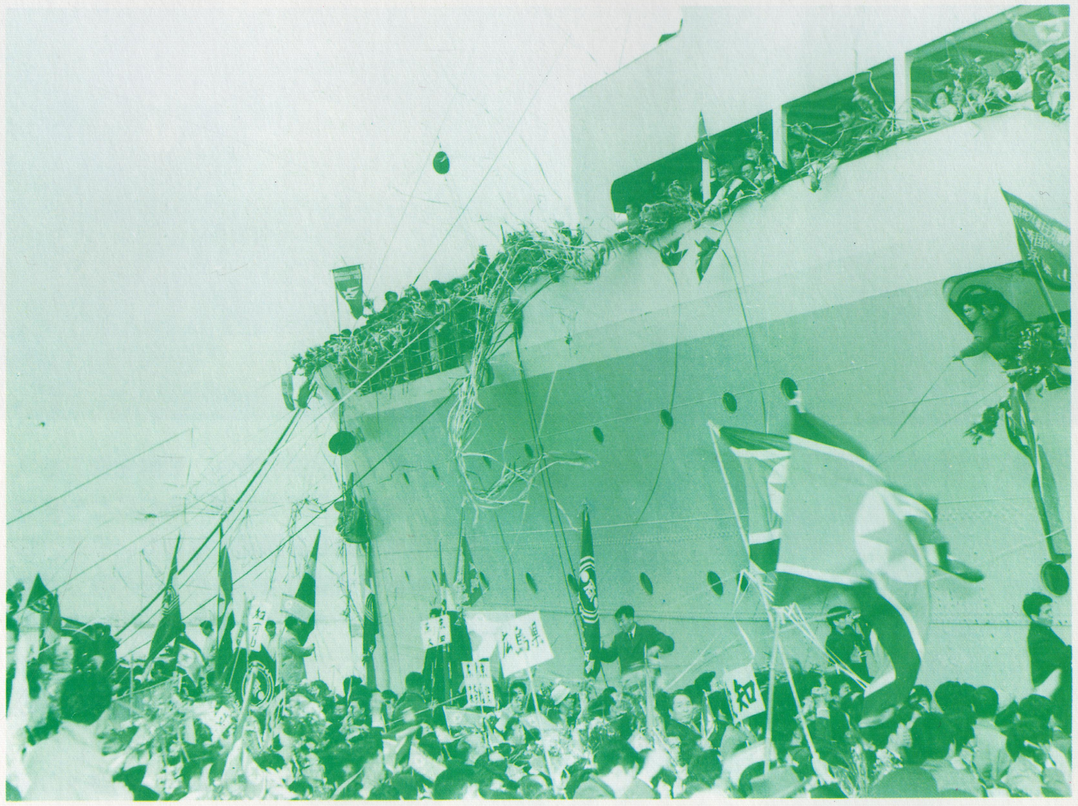
また本校の創立によって、自らの力で民族教育の教師を養成する問題が解決されただけでなく、組織的な学術研究の場が設けられたのである。

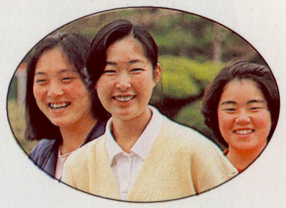
創立当時、本校は10余名の教員と60余名の学生によって２年制の大学校として出発したが、その前途には、さまざまな難関が横たわっていた。大学経営の経験もなく、運営資金にもこと欠く状態であった。校舎は、はじめ東京朝鮮中高級学校の建物の一部を仮校舎として利用した。当時、生活苦のため中退せざるをえない学生も少なくなかった。

このような困難な時期であった1957年４月、祖国から最初の教育援助費と奨学金が送られてきたのである。

この祖国の暖かい配慮は、在日同胞子弟の民主主義的民族教育と朝鮮大学校発展の決定的な推進力となった。

とくに、第２次教育援助費が本校の校舎建設にあてられることになって、朝鮮大学校の面目は一新され、大学教育の質的発展の道は大きく開かれるようになった。


第一次帰国船の新潟出港（1959.12）




小平市の新校舎移転式に集まった人びと（1959.5）

学生を激励する韓徳銖名誉学長




学生たちは講堂と図書館をみずからの手で建設した（1963.11）

このような祖国の配慮に励まされ、本校は1958年４月から４年制大学校へと学制（２学部６学科）を改編し、新しい発展の道を歩みはじめた。



共和国オリンピック選手団の辛金丹選手とともに（1964.10）

総合的な大学校への発展

1959年6月、朝鮮大学校は閑静な武蔵野の一角に建てられた新しい校舎に移転することとなった。小平市への移転は、本校の教育と研究を発展させる重要な契機となっただけでなく、さらに多くの学生を受け入れることを可能とした。以来、本校は総合的な大学校として発展の道のりをたどってきた。

1959年からは、学業が優秀であるが経済的に困難な学生に対して給費生制度（授業料、食費免除、奨学金を支給）が実施され、これは在日同胞への大きな励ましとなった。

1959年、共和国への帰国が実現し、祖国への関心が高まるにつれて、朝鮮大学校をはじめ各級朝鮮人学校に入学する学生は激増した。

1960年度の在校生総数は500余名に達し、その後もひきつづき増加の一途をたどり、教員も大幅に補充された。

こうして1964年4月には、文学部、歴史地理学部、政治経済学部、理学部、師範教育学部へと学部制を改編し、学科、講座制度を整備した。そして1967年には、新たに工学部を設置することとなった。

このように、学生の民族意識を高め、祖国の未来を担う人材を育てるという本校の任務はさらに重要になり、教育と学術研究において主体を確立し、その質を高めるため、いっそうの力が注がれるようになった。

学生たちは全寮制のもとで「一人はみんなのために、みんなは一人のために」というスローガンを掲げ、学習意欲を高め、教職員と一体となり、講堂、図書館、いくつかの寄宿舎などを自力で建設するという壮挙をなしとげた。まさにこれは、民主主義的民族教育の場での一つの精華といえよう。

朝鮮大学校に対する在日同胞の期待と援助が強まる一方、広範な日本国民の関心も高まり、交流と連帯は日ましに拡大された。

本校がわずか10年にも満たない期間に急速な発展をとげた事実は、祖国の暖かい配慮、在日朝鮮公民の愛国的熱意とともに、広範な日本国民の惜しみない支持のたまものである。

しかし、日本当局の在日朝鮮人に対する非友好的な政策は是正されることなく、1965年の「韓・日条約」締結を前後して、いっそう露骨なものとなった。

本来、独立国家の公民が居住地のいかんを問わず母国語による民族教育を行うことは、国際法と国際慣例の見地から言っても、当然認められねばならない民族的な権利である。とくに、在日朝鮮人の歴史的経緯を考慮するならば、日本当局が民族教育を全面的に認め、保証するのは当然のことであり、道義的な責任であるとも言えよう。しかし日本当局は長期間にわたって朝鮮大学校の設置認可申請を受理せず、「外国人学校法」の制定を何度もはかり、むしろ民族教育を抑圧する態度をとってきたのである。

認可のない悪条件のもとで大学校の管理運営に支障が多く、朝鮮大学校の法的認可は切迫した問題となった。

本校の認可問題は、日本の学者、文化人、教育関係者をはじめとする各界各層の積極的かつ広範な支持を受け、1968年4月17日、美濃部東京都知事の決断によって、ついに本大学校の認可が実現された。

大学校のいっそうの発展を目指して

朝鮮大学校の認可以来、激動の1970年代から今日にいたる期間、教職員と学生の祖国訪問が実現し、大学教育はより充実して、科学研究機関としての使命もりっぱに果すようになった。

本校は1970年代に入り、急速に発展する科



都知事に朝大認可を要請する文化人たち





朝鮮大学校認可祝賀第２回学術交流懇談会

朝大生と関東地方の各級学校の学生によって行なわれたマスゲーム





マスゲームの一場面



大学生の文化公演

学技術の成果を取り入れるため教育課程を大きく改編し、教育の質的向上に力を注いだ。

また、時代の要請にこたえるべく学部の新設（外国語学部―1974年、経営学部―1982年）と学科構成の細分化とともに1974年から２年制の研究院を新設し、各分野の専門家を養成することになった。さらに本校は、付属研究所（朝鮮語研究所：1970年、民族教育研究所：1974年、社会科学研究所：1982年）を設置し、研究機関としての体制をいっそうよくととのえるようになった。

1982年５月には、本校創立25周年を記念して建設した記念館に「朝鮮歴史博物館」、「朝鮮自然博物館」が設置され教育施設はよりいっそう充実した。

教育の質的水準が高まるにつれ、優れた資質を備えた卒業生を送り出すようになった。卒業生は在日朝鮮人運動の各分野に進出し、一部は日本の大学院や研究機関に進み、イギリス、フランスなどへの海外留学も年々増加している。

●30年の歩み



各級学校の学生による大音楽舞踊叙事詩の公演







練習風景



朝鮮大学校認可実現にさいして記者会見する韓徳銖学長（当時）

とくに、祖国訪問の実現は教員の質を高め共和国の学術文化の成果を摂取するうえで重要な契機となった。同時に、学生たちの祖国訪問は、共和国の海外公民としての自負心と民族の将来を担う青年としての自覚を高めるまたとない機会となっている。

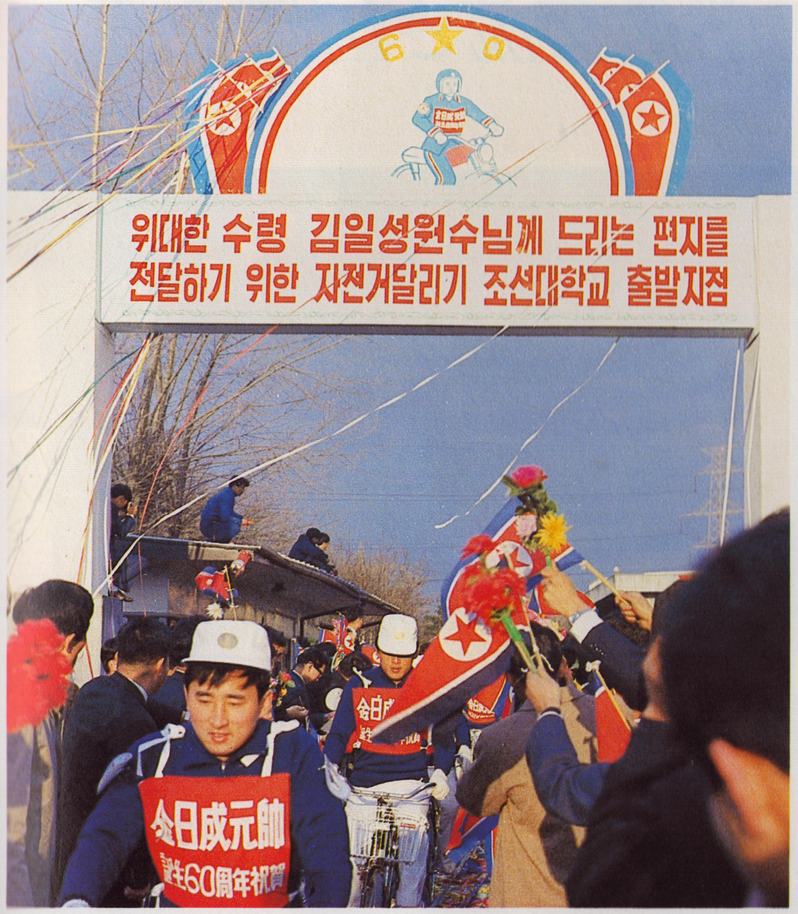
この間、教員の研究活動が積極的におし進められ、各種の単行本、論文が発表されており、日本はもちろん欧米をはじめ海外で開催される学会への参加、諸大学への出張講義なども活発に行なわれている。

こうして、創立30周年を迎えた朝鮮大学校は、名実ともに民主主義的民族教育の最高学府として、また学術研究の機関としてりっぱにその使命を果している。



朝鮮大学校創立25周年記念
朝・日学術シンポジウム





金日成主席の誕生60周年を祝賀する手紙をもって祖国に出発する朝大生（1972.4）





本校教員の研究成果の一端

学術交流と国際親善

在日朝鮮公民の民主主義的民族教育の最高学府として、また学術研究機関として、日本をはじめ各国との学術文化の交流と国際親善にも力をそそいでいる。



日本の各大学学長，教授との懇談会（1967.10）



本校を訪問して朝鮮の歌を合唱する諸外国代表



ソ連のオパーリン博士の訪問（1967.8）

朝鮮大学校は創立以来、日本をはじめ世界各国との学術文化交流と国際親善のために、少なからぬ力をそそいできた。

まず日本の大学、研究機関、学会と日常的に交流をつみかさねてきた。とくに日本の学者、知識人をはじめとする各界の広範な参加のもとにくりひろげられた朝鮮大学校設置認可を支持する運動は、民族教育と大学校にたいする理解を深め学術交流をさらに拡大させる契機となった。

現在、各種の研究資料の出版や日本の学会への参加、シンポジウムの共催、日本の著名な学者、文化人の招待講演など、さまざまなかたちの学術交流がさかんに行なわれている。

さらに、アジア，ヨッロッパなどの第三国で開かれる国際学会や会議への本校教員の参加、諸大学・研究機関からの要請による出張講義、留学など、幅広い国際交流がはかられている。日本を訪れる各国の学者や文化人が本校を訪問し、学生同志の交流も日常的に行われている。日本の大学生との定期的な交流は朝・日の若い世代の相互理解と連帯のきずなをいっそう強めており、諸外国の学生たちとの学問、文化の交流も深められている。

朝鮮大学校のあゆみは、常に日本の学者、文化人をはじめ広範な国民の好意あふれる支持と連帯によって支えられてきた。

そのことをものがたるかのように研究室には多くの人びとから寄せられた貴重な図書があり、また、庭園には各界各層から贈られた樹木が数多くおい茂っている。

●学術交流と国際親善



各国代表の訪問を歓迎する本校学生（1975.5）



親善訪問したソ連公館の人びと（1971.5）



美濃部都知事の朝鮮大学校訪問（1973.6）



オーストラリア人記者の訪問



中国青年代表団の訪問（1974.2）



英国文化人の訪問

卒業生の活動



本大学校創立25周年を記念する卒業生の集い



記念館建設委員たちの祖国訪問



卒業生、学父兄たちの記念館建設発起会



東日本地方同窓会



東京居住卒業生の集い

本校は創立以来、7,000余名の卒業生を送りだした。

在日朝鮮人の総数が687,000余名(1984年12月現在)であるので、在日同胞100名にほぼ1人は朝鮮大学校の卒業生ということになる。これは本校卒業生が在日同胞社会においていかに大きな役割をはたしているかを示すものであり、朝鮮大学校の教育の重要性を物語ってあまりある。日本のいたるところに同胞が住み、同胞のいるところに必ず朝鮮大学校出身者がいるといっても過言ではなかろう。朝鮮語が話せない在日2、3世同胞が増えているこんにち、本校卒業生にたいする同胞の期待と信頼はますます高まっている。

初級学校から大学校にいたる民族教育は今やほとんど本校卒業生が担っており、都道府県にある朝鮮総聯の各組織と団体、各種の研究機関、報道出版機関、芸術分野、信用組合、貿易商社など各分野で卒業生が重要な役割をはたしている。

卒業生のなかには日本の大学、研究機関で研究成果を収め学位を取得した者が少なくなく、フリーのジャーナリストや芸術家として活躍している者やイギリス、フランスなどに留学して研究を続けている者もいる。

このように卒業生の活動分野は多岐にわたっており、在日同胞の諸権利の擁護と朝・日友好親善のためにりっぱに尽力している。

最近日本全国的な同窓会(本部は大学校内)が組織され、地方ごとに支部が置かれ、多彩な活動を行なっている。

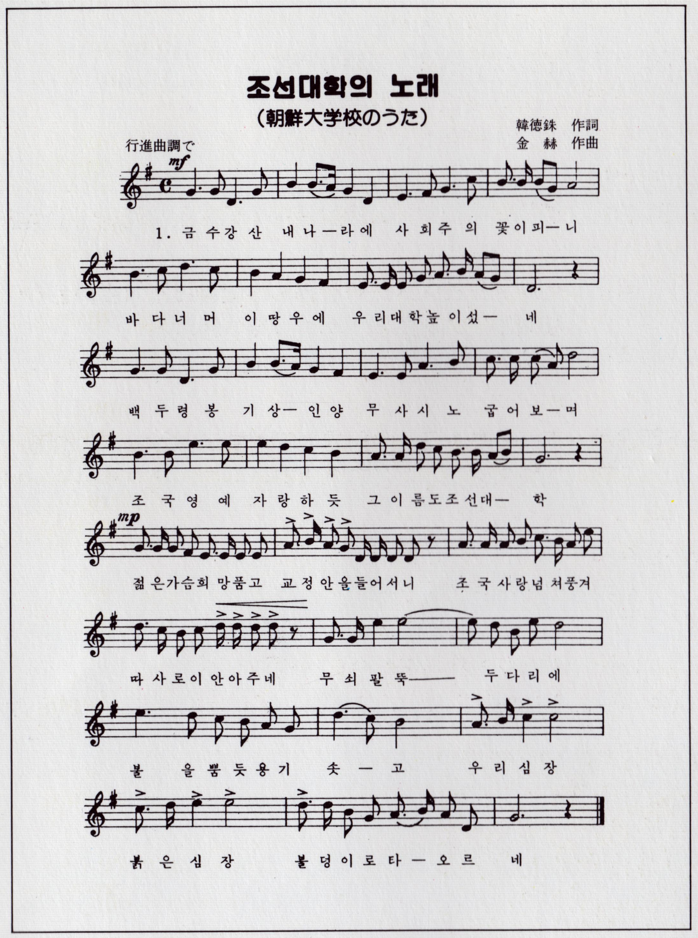
卒業生たちは母校に強い愛着心を持っており、彼らの熱意は、1981年の大学校創立25周年にちなんで莫大な基金によって建設された「創立25周年記念館」として結実を見た。

朝鮮大学校の沿革

1956年4月　朝鮮大学校が創立される
1957年4月　祖国から第1次教育援助費と奨学金が送られる
10月　同じく第2次教育援助費と奨学金（朝鮮大学校校舎建設資金として）が送られる
1958年4月　学制を2年制から4年制(2学部　6学科)に改編する
1959年4月　給費生制度を実施する
6月　東京都小平市の新校舎へ移転する（この建物は1962年度「日本建築年鑑賞」を受賞）
1964年4月　学部を改編し、文学部、歴史地理学部、政治経済学部、理学部、師範教育学部の5学部とする
5月　教職員学生自身の労力によって講堂、図書館を竣工する
10月　祖国の代表団（東京オリンピック選手団）がはじめて本校を訪問する
1965年1月　朝鮮民主主義人民共和国の学位学職審議委員会から本校教員10名に共和国教授、副教授の学職が授与される
1966年4月　本校創立10周年を記念して朝鮮民主主義人民共和国内閣から祝旗が送られる
1967年4月　工学部を新設する
11月　韓徳銖学長が朝鮮民主主義人民共和国最高人民会議代議員に選出される
1968年4月　都知事から設置認可をうける
5月　韓徳銖学長、名誉学長となる
6月　第2研究棟が竣工される
1970年3月　付属朝鮮語研究所が設立される
1972年2月　韓徳銖名誉学長に朝鮮民主主義人民共和国労働英雄称号が授与される
4月　朝鮮民主主義人民共和国の学位学職審議委員会から本校教員に共和国博士学位が授与される
6月　本校教員が世界教員連盟の国際会議（ハンガリー）に参加する
1973年3月　本校卒業生に「金日成青年栄誉賞」が授与される
8月　本校の教員および音楽体育サークル代表がはじめて祖国を訪問する
1974年4月　外国語学部と研究院を新設する
4月　付属民族教育研究所が設立される
1975年5月　本校に「金日成勲章」が授与される
9月　韓徳銖名誉学長が祖国を訪問する
1976年4月　本校創立20周年にさいし、朝鮮民主主義人民共和国教育委員会から祝旗が送られる
11月　金日成綜合大学創立30周年にさいして本校教員代表団が祖国を訪問し、金日成主席の接見をうける
1977年7月　本校卒業生がはじめて第三国へ留学する
9月　ピョンヤンで開かれた「チュチェ思想にかんする国際討論会」に本校教員10名が参加する
1978年1月　金日成綜合大学博士院にて研究する資格が本校教員に与えられる
1980年3月　本校理事会代表団が祖国を訪問する
8月　本校卒業予定の学生全員がはじめて祖国を訪問する
1981年5月　朝鮮大学校創立25周年にさいし、本校代表団が祖国を訪問し、金日成主席の接見をうける
1982年4月　経営学部、社会科学研究所が新設される
5月　朝鮮大学校創立25周年記念館竣工する
1985年2月　故朴正汶教授に共和国博士学位が授与される
4月　師範教育学部に3年制の師範科が新設される
9月　南時雨学長に共和国博士学位が授与される
1986年4月　本校創立30周年を迎える







朝鮮大学校

発行日　１９８６年４月１０日
発行人　朝　鮮　大　学　校
〒187　東京都小平市小川町1-700
電　話　0423（41）１３３１（代表）

印　刷　朝　鮮　新　報　社